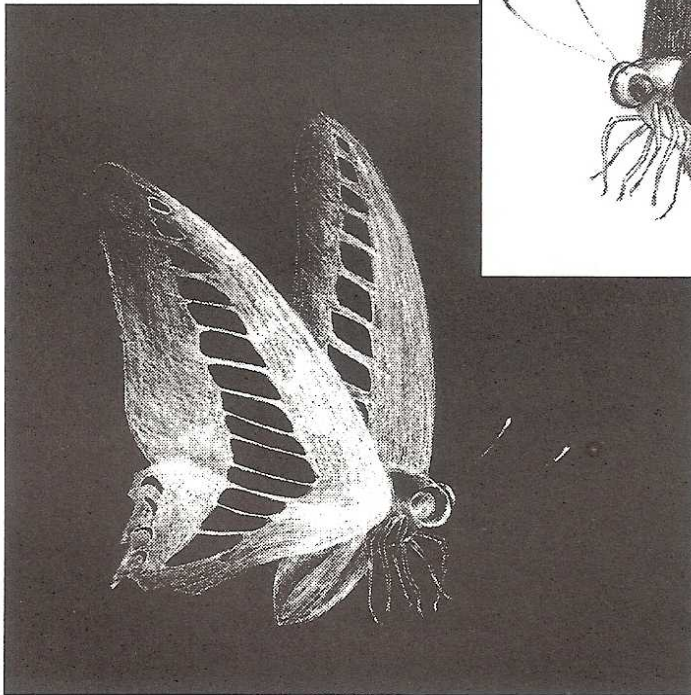
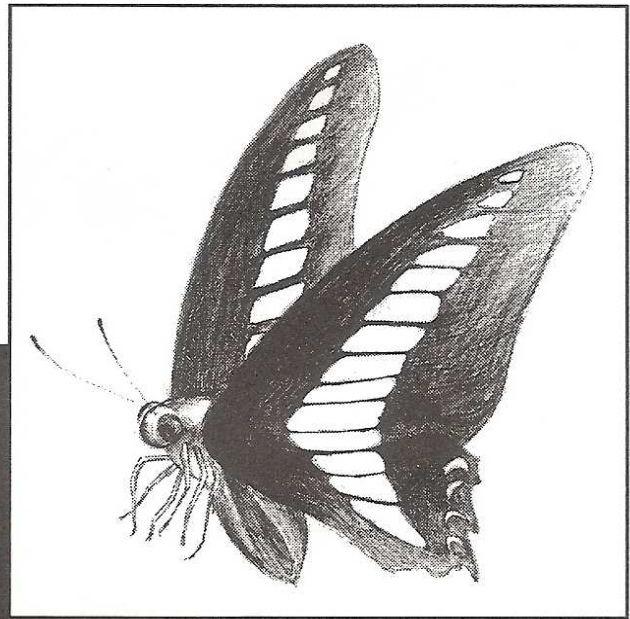


翔

百万石蝶談会 No.168

June 2004



石川県でスナビキソウから吸蜜するアサギマダラを観察

林 宏初・松井 正人

筆者の1人の林は、6月に能美郡根上町の山口海岸で、スナビキソウから吸蜜するアサギマダラ数頭を観察した。



2003年6月8日 能美郡根上町山口海岸 6頭目撃 林 宏初 (撮影同じ)

春の海岸で、スナビキソウから吸蜜するアサギマダラは、各地で観察されており、スナビキソウとアサギマダラの関係が、近年になって注目を集めている。石川県に於いても、金沢市の海岸でアサギマダラが観察されていたが、スナビキソウからの吸蜜については、観察されていない。海岸で観察されているアサギマダラを、表-1に示す。

アサギマダラは、春に日本列島を北上し、秋には日本列島を南下する蝶として知られ、その移動コースは、マーキング調査によって明らかにされつつある。しかし、南下移動コースについては、順調に成果が上がっているものの、北上移動コースについては、ほとんど成果が上がらず、謎に包まれている。これは、南下移動するアサギマダラはヒヨドリバナの仲間に誘引されることが良く知られ調査が容易なのに対し、北上移動する個体は、誘引される植物があまり知られていない事が原因のひとつになっていると思われる、今後スナビキソウの利用が有効かどうか重要なキーになると考えられる。

表-1. 春の海岸で観察されているアサギマダラ

場所	観察年	観察時期	観察時間	観察数	吸蜜植物	参考文献
福岡県	1999年	5月14日～5月31日	6:00～14:00	76頭	スナビキソウ	花田(1999)
福岡県	2003年	6月14日	6:00	1♂	スナビキソウ	大島(2003)
兵庫県	1995年	5月21日～6月10日		22頭	スナビキソウ	山本(1996)
兵庫県	1996年	5月30日～6月10日		13頭	スナビキソウ	足立(1997)
兵庫県	1997年	5月 8日～5月18日		6頭	記載なし	足立(1997)
兵庫県	2001年	6月 2日～6月 3日		10♂	スナビキソウ	足立(2001)
兵庫県	2001年	6月 3日		9♂	スナビキソウ	藤井(2001a)
兵庫県	2001年	6月 2日～6月 3日		29♂	スナビキソウ	藤井(2001b)
石川県	2001年	5月27日	10:00～11:45	2頭	不明	松井(2002)

(注) 福岡県の76頭の吸蜜植物は、金沢(2003)がスナビキソウとしている。

海岸のアサギマダラは、5月から6月上旬に観察されている。観察時間が早朝6時からと早いのは、高温が苦手なアサギマダラにとって、海岸での吸蜜は、まだ気温が低い早朝が適しているのであろう。

スナビキソウは、砂浜や磯浜に生え、石川県では5月中旬から咲き始める。また、石川県にアサギマダラが飛来するのは5月上旬からで、この頃から約1ヶ月は、海岸のスナビキソウでアサギマダラが見付かる可能性が高い。

《 参考文献 》

- 足立義弘(1997) 但馬海岸部のアサギマダラの記録. 混蟲ずかん(58):6. 但馬むしの会.
- 足立義弘(2001) 竹野町大浦海岸でのマーキング. 大阪市立自然誌博物館運営メーリングリスト「asagi」:001919.
- 藤井 恒(2001a) Re:竹野町大浦海岸でのマーキング. 大阪市立自然誌博物館運営メーリングリスト「asagi」:001921.
- 藤井 恒(2001b) Re:竹野町大浦海岸でのマーキング. 大阪市立自然誌博物館運営メーリングリスト「asagi」:001930.
- 花田英司(1999) マーキングについて(家の近くの海岸にて). アサギマダラ情報(226):3.
- 金沢 至(2003) Re:スナビキソウとハマボッサ. 大阪市立自然誌博物館運営メーリングリスト「asagi」:004685.
- 松井正人(2002) 2001年アサギマダラ日記. 翔(155):5-8.
- 大島新一郎(2003) 標識情報:九州のミズヒマワリ調査同行記. 大阪市立自然誌博物館運営メーリングリスト「asagi」:004691.
- 山本一幸(1996) 竹野の海岸で目撃されたアサギマダラ. IRATSUME(20):36. 但馬むしの会.
 《はやし こうはつ 〒920-3121 根上町道林町ハ126-1》
 《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2003年の石川県輪島市におけるアサギマダラマーキング調査

日吉芳朗・日吉南賀子

2003年の夏は全国的にみると低温、多雨、日照時間不足であったにもかかわらず、アサギマダラの発生は例年になく多く、マーキング数と再捕獲数はこれまでにない数にのぼったという。輪島市の天候も例外ではなかったが、2003年のマーキング数は筆者らがマーキング活動を行った2000～2002年と比較してその3割弱でしかなかった。しかし、県外での再捕獲数はほぼこれまでと変わらない4件で、その地は、群馬、愛知、鹿児島（2件）の諸県であった。詳細は松井（2004）に記されているが、これまでの3割弱のマーキングで、これまで同様の再捕獲があったことから、全国的にマーキングが盛んになっている事がうかがえる。

■輪島市の気候と鉢伏山・宝立山の状況

輪島市での5月と6月の天候は、ほぼ平年並みだったが、7月の日照時間は極端に短く、晴の日がわずか3日で、曇の日が20日、雨の日が8日であった。そのためか、平均気温も低かった。このような状況下で、例年5月下旬から6月上旬にかけて観察され始めるアサギマダラは、2003年はいくぶん遅れた6月18日に鉢伏山で筆者らが4頭を目撃し、その飛来を確認した。

鉢伏山のアサギマダラは、例年7月20日ごろに大量に姿をあらわし、その状態がほぼ2週間継続するものであったが、2003年は8月上旬にいくらかまとまった数の個体が姿をみせたにすぎず、例年の23%に止まった。その原因は、7月の日照不足と低温による幼虫の死亡率の上昇かと思われる。

宝立山では、鉢伏山に反し、例年をやや上回る個体が観察できた。これは、鉢伏山のアサギマダラが姿を消した頃から、9月中旬にかけて散見することができたからである。この山には、ヨツバヒヨドリのような吸蜜植物となりそうなものがほとんど見当たらないことが気になっていたが、コシアブラが開花してからはもっぱらこれで吸蜜していた。

なお鉢伏山と宝立山での2003年のマーキングでは、同地での再捕獲が1頭もなかった。個体数が少なかったことや、とどまる期間が短かったことによるのかもしれない。

2000年から2003年にかけての平均気温、降水量、日照時間を表1に示す。

■舳倉島の状況

2003年は、舳倉島へ2回渡ったが、アサギマダラは1頭も観察できなかった。しかし、民宿「つかさ」と「つき」に置いた記録ノートへの書き込みや、島で暮らす人達の協力によって以下の情報が集まった。

6月3日から7日にかけて渡部良樹氏が10頭を目撃され、6月22日には早瀬 勇氏が1♂を採集、7月4日には端谷豊治氏が1♀にマーキングされている。

舳倉島での調査にご協力いただいた早瀬 勇氏、輪島市立鳳至小学校舳倉島分校の端谷

豊治氏、国立市の渡部良樹氏、そして民宿つかさ、民宿つきの皆さんに厚くお礼を申しあげます。

表1. 7月の輪島市における天候と年間マーキング数、県外再捕獲数

年	輪島市の天候			マーキング数		県外再捕獲数
	平均気温	降水量	日照時間	鉢伏山	宝立山	
2000年	25.7	113	214	999	24	3
2001年	25.6	29	245	899	13	5
2002年	24.7	508	172	817	0	6
2003年	21.5	248	69	205	52	4

表2. 2003の輪島市におけるアサギマダラマーキング頭数

月日	計(内訳)	鉢伏山	宝立山	舳倉島	時刻	温度	天気
6月23日	1 (1♀)		1♀		9:23	22	晴
7月4日	1 (1♀)			1♀	14:20	20	曇
7月22日	8 (2♂ 6♀)	2♂ 6♀			16:25~17:10	24	曇
7月26日	3 (1♂ 2♀)	1♂ 2♀			10:40~10:50	22	曇
7月27日	7 (5♂ 2♀)	5♂ 1♀			9:18~10:53	20	曇
7月27日		1♀			15:50	23	曇
7月28日	4 (4♂)	4♂			9:45~10:27	23	曇
7月31日	6 (4♂ 2♀)	4♂ 2♀			13:55~14:23	20	曇
8月1日	3 (2♂ 1♀)	2♂			7:31~7:36	20	霧
8月1日		1♀			15:30	25	晴
8月2日	26 (19♂ 7♀)	18♂ 7♀			7:15~9:33	23	晴
8月2日		1♂			16:20	25	晴
8月3日	20 (11♂ 9♀)	11♂ 9♀			7:08~9:48	24	晴
8月4日	42 (34♂ 8♀)	34♂ 8♀			6:28~8:29	25	曇
8月6日	16 (11♂ 5♀)	7♂ 3♀			6:04~6:56	20	霧
8月6日		4♂ 2♀			10:50~11:30	26	曇
8月7日	34 (24♂ 10♀)	20♂ 4♀			6:28~8:05	24	曇
8月7日			4♂ 6♀		9:32~10:17	27	曇
8月10日	16 (15♂ 1♀)	15♂ 1♀			9:07~10:21	23	曇
8月11日	24 (19♂ 5♀)	19♂ 5♀			10:58~12:23	24	曇
8月13日	6 (5♂ 1♀)	5♂ 1♀			7:25~8:04	21	晴
8月26日	3 (2♂ 1♀)		2♂ 1♀		14:13~14:29	24	曇
9月2日	1 (1♀)		1♀		14:08	26	晴
9月4日	1 (1♂)		1♂		11:05	23	晴
9月12日	6 (3♂ 3♀)		3♂ 3♀		11:48~12:19	25	曇
9月13日	12 (3♂ 9♀)		3♂ 9♀		8:08~8:45	25	晴
9月14日	8 (8♂)		8♂		14:15~14:45	20	雨
9月15日	1 (1♀)		1♀		15:26	22	晴
9月16日	2 (2♀)		2♀		10:50~11:25	21	曇
9月23日	7 (3♂ 4♀)		3♂ 4♀		10:38~11:34	20	晴
合計	258 (176♂ 82♀)	152♂ 53♀	24♂ 28♀	1♀			

《参考文献》

松井正人 (2004) 2003年石川県のアサギマダラマーキング概要. 翔 (166) : 1-5.

《ひよし よしろう・ひよし ながこ 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

石川県で5月にツマグロヒョウモンの羽化直後の個体と蛹の抜殻を観察

松井 正 人

加賀市の塩屋海岸で、足下から羽がまだ柔らかい羽化直後と思われるツマグロヒョウモン1♂が飛び出し、飛び立った場所から蛹の抜殻が見付かった。飛び出した♂は、この蛹から羽化したものと考えられる。

この調査では、他に1♂2♀のツマグロヒョウモンも観察している。

2004年5月2日 石川県加賀市塩屋海岸 2♂2♀1蛹殻 松井正人

石川県内に於けるツマグロヒョウモンの越冬は、非休眠の幼虫によって越冬が可能と推定（松井、1999）され、野外条件に近い室内飼育で確かめられていた（松井、2002）。また、2002年3月には越冬幼虫が見付かり（奥、2002）、今回の観察でツマグロヒョウモンの越冬は、100%確認されたこととなる。

松井（2002）の室内飼育では、4月19日から蛹化が始まり、5月5日から羽化しているが、この個体も似た様な過程で羽化に至ったものと思われる。

写真上：矢印先端に蛹殻があり、葉が被さっている
写真下：覆い被さった葉をどけたところ



《 参考文献 》

松井正人（1999）石川県加賀市でツマグロヒョウモン越冬か. 翔（138）：2-3.

松井正人（2002）冬期間におけるツマグロヒョウモン飼育記録. 翔（154）：7.

奥素八子（2002）我が家の庭でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察. 翔（156）：1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県鳳至郡柳田村での蝶の追加記録種

日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗

鳳至郡柳田村の蝶リストは、松井（2000）により13種が報告され、2002年には日吉・他（2002）によって34種が追加されて、47種になっていた。その後2003年までには、以下の6種を追加確認し、リストは53種となった。

ミズイロオナガシジミはこの地での5番目のゼフィルスであり、ツマグロヒョウモンは数年前に奥能登各地で確認されたときに見出されなかったものである。

ミヤマカラスアゲハ	2003年7月26日	柳田村北河内	1♀	日吉芳朗
ミズイロオナガシジミ	2003年6月29日	柳田村鉢伏山	2頭	日吉南賀子
サカハチチョウ	2003年8月7日	柳田村北河内	2頭目撃	日吉芳朗
ツマグロヒョウモン	2003年9月15日	柳田村久田	2♂1♀	日吉南賀子
サトキマダラヒカゲ	2003年8月26日	柳田村五十里	1♂	日吉宏朗
ヒメジャノメ	2002年8月11日	柳田村五十里	1頭	日吉宏朗

《参考文献》

日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子（2002）奥能登の内浦町、柳田村、門前町での蝶の追加記録種。翔（159）：1-3.

松井正人（2000）市町村別蝶類記録一覧表。翔（147）：6-10.

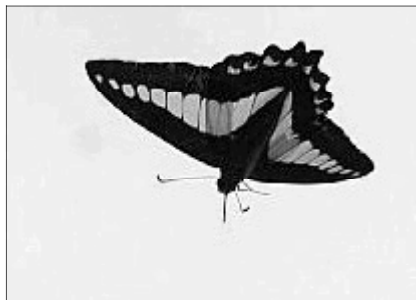
《ひよし よしろう・ひよし ながこ 〒928-0001輪島市河井町1部64-1》

街で目立つ青い羽

蝶談会事務局

黒地に青い帯が入ったスマートなアゲハチョウ。飛翔力があり、早いスピードで、樹木や花のまわりを軽快に飛び回る。幼虫は、公園や街路樹、庭などによく植えられているクスノキを食べるので、街の真ん中でも普通に見ることができる。

公園などに植えられたクスノキを調べて見ると、以外と簡単に幼虫や卵が見付かり、卵は新芽に産み付けられ色は黄色、小さい幼虫は若葉の裏に、大きな幼虫は葉の表面に付いている。クスノキの外に、ヤブニッケイやタブノキなどからも見付かる。



石川県で相次いだクマゼミの記録

富 沢 章

2003年は、クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker) の目撃、鳴き声の記録が、著者あるいは石川県ふれあい昆虫館への情報として相次いだのでここに報告する。

■小松市丸内公園町芦城公園 2003年 7月27日 1♂ (鳴き声と目撃) 富沢章
芦城公園内のサクラの木で鳴く個体を発見した。

■小松市小寺町 2003年 7月28日 1♂ (鳴き声のみ) 富沢章
中学校のグラウンドにあるマツの木から鳴き声を聞いた。上記と約600m離れているが、同一個体の可能性もある。

■小松市向本折町 2003年 8月10日 1♂ (鳴き声と目撃) 富沢章
市営の墓地内にあるクロマツの木で鳴く個体を発見した。

■石川郡美川町永代町 2003年 8月 9日 1♂ (鳴き声のみ) 松下英樹
キリの木で鳴いているのを聞いている。

■金沢市鞍月 2003年 8月28日 3♂ (鳴き声と目撃) 近堂清司
新県庁の正面に植栽された樹木から、3♂の鳴き声を聞いている。植栽木は2002年に九州から根回しした状態で送られたものなので、幼虫が根に付いたまま運ばれ、羽化したと思われる。なお、上記のクマゼミの鳴く姿は、当日の夕方に石川テレビで放映された。

上記のほかに、「金沢市で鳴き声を聞いた」という話を、夏期にFMラジオ石川で聞いている。県内に定着したかどうかの判断はむずかしいが、5年以上、同一場所で複数個体が出現すれば、定着したと断定してもよいと思われる。

最後にクマゼミの情報を提供していただいた美川町の松下英樹氏、石川テレビの近堂清司氏に厚くお礼申し上げる。

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目 71 》

0

短報 168

0

ウスバシロチョウ	2004年 4月22日	石川郡吉野谷村下吉野	1頭目撃	嵯峨井淳郎
ウスバシロチョウ	2004年 4月25日	石川郡尾口村女原	1頭目撃	嵯峨井淳郎
ウスバシロチョウ	2004年 4月30日	金沢市田上本町	2頭目撃	嵯峨井淳郎
ウスバシロチョウ	2004年 5月 7日	輪島市別所谷大久保	5♂	日吉芳朗
ウスバシロチョウ	2004年 5月 7日	輪島市上黒川	3♂	日吉芳朗
ウスバシロチョウ	2004年 5月12日	金沢市大乘寺山	5頭目撃	松井正人

0

0

多勢に無勢

小幡 英典



アメリカシロヒトリに囲まれたゴマダラチョウ(石川県金沢市米泉にて)

カマキリに捕らえられたゴマダラチョウを見つけたエノキの木で、ゴマダラの幼虫2頭とゴマダラの卵1個、そして羽化殻1を発見。いやーいるもんだ。

そしてやっかいなアメリカシロヒトリの幼虫集団が、ふたつ！これを、さっさと駆除しておけばよかったのですが、数日で食害範囲を拡大し、ゴマダラのいる枝迄迫ってきました。ゴマダラ、ピンチ！

この危機をどう乗り切るのか！ 近付いてきたアメシロ幼虫は、頭部を左右に振って追い払えるものの、周りをずんずん食害されて居場所が無くなり、中央突破を図って、アメシロの糸の上を器用に這い回るも堂々めぐり。しばらく眺めていたものの、ゴマダラが他の枝迄行き着きそうも無いので、当方がタオルを投入！

ゴマダラ幼虫を他の枝に移しました。アメリカシロヒトリは、枝ごと排除。一集団を雑草の繁った溝に置いてみました。どんな捕食者が現れるか、期待していたのですが、そこに生えていたアメリカセンダングサを丸坊主にして、集団はずっと健在。節操のない食性にびっくりです。

《おばた ひでのり 〒804-0074 北九州市戸畑区南鳥旗町2-7-401》

初夏の浜辺で青い蝶を捜そう
 春の北上、何百キロと飛翔してきたアサギマダラは、浜辺で羽を休めている。スナビキソウの蜜を吸い、しばしの休息の後、再び北を目指す。うらかな季節、浜辺で青い蝶を捜してみませんか。その羽に親書を携えてるかも知れません。

サイシン食いのギフチョウ

出そうで出ない石川県のサイシン食い。奥獅子吼やブナオ山観察舎、中宮温泉、白抜山など、ウスバサイシンは何か所かで見付かっているが、ギフは見付かっている。どこかで食べているに違いない。とにらんだ生田省悟氏は、時間をかけて楽しみながら、調査を進めるとか。

山菜好きがアダとなる

ウド、タラの芽、コゴミなど、虫採りついでに採った山菜は、家族をなだめる良い土産となり食卓を賑わすが、凝

り出すと、マイナー種に手を出し、「食べられるか」が「食べられる」に変化して、時には家族揃ってゲリピーとなる。症状が軽くて良かったね、会長。

どれが一番おいしいか

ふれあい昆虫館の大型連休特別企画「虫を食べよう」では、蜂の子、蚕、蝗、川虫、鉄砲虫、蟋蟀、穴蟬などが並んだが、一番おいしいどころか、どれが食べられるかだった。

種分化で探る奥能登の虫

奥能登には、なぜアカコムラがないのか、なぜクロアゲハの赤斑が発達するのかなどを、ジョウカイボンの種分化の比較から探れないかと、高田君が調査に乗り出した。

トゲナナフシはいつまで生きる

トゲナナフシ飼育の極意は加湿。水滴がしたたる状態で飼育すれば、まずまず大丈夫だが、昨年の成虫が越冬し、五月になっても産卵している。いつまで生きるのか。

親子自然観察会では親を教育

子供は動くものに興味があがり、何にでも手を出し、何処にでも入って行く。ところが自然観察の体験が無い親はおっかなびつくりで、「危ない」「汚い」と言つて子供を制止する。親の教育の方が先かも知れない。

初夏の浜辺にアサギが飛来

足下の砂地から突然舞い上がる青い大きな蝶、波打ち際や地表近くをフワリフワリと舞い、白い花に止まった。五月十五日、これからはほぼ一月、海岸でアサギが観察できる。

例会の記録

四月八日(木)城南管工一階にて、午後八時から開催。

最近盛んな町村合併。これに伴う記録地の表記方法は、どれが正解か、意見が分かれた。

一. 記録された時の地名

二. 最新の地名

三. 一と二の地名を併記

その他の話題は、ギフチョウ

ウはまだまだおいしい、医王山ヒメキマダラヒカゲのポイント、トゲナナフシにカビが生えたが元気、今年から毎日が日曜日などなど。

参加は、竹谷、細沼、松井、浅地、富沢、井村、生田省、吉村、中西の九人。

例会の記録

五月六日(木)城南管工一階にて、午後八時から開催。

主題は、浅地氏のトンボ。四月から飛び出した今年のウスバキトンボ、能登のヒラサナエはノトサナエ?、キイロサナエの棲み分け、標本作製時のアセトンの使用方法など。

その他の話題は、五月の浜辺でアサギを捜せ、これから楽しめるギフチョウポイント、エサキキンヘリはマングロウブヤナギを捜せ、昆虫館のナナフシ手触り体験などなど。

参加は、池田、松井、浅地、久慈、井村、中西、生田耕、の七人。池田氏は、新入会員。

【表紙デザイン：小幡英典】

【表紙イラスト：坂原 圭】

会員の動き・しゃばの動き

医王山のカラスは偏食家

医王山のカラスシジミに、石動山のオヒヨウを与えたが食いつかなかった。公園のハルニレの食いつき率は百分なので、医王山産は偏食なのか、それとも石動山産が不味いのか。

カメラを持った小父さん出沒

最近、カメラを持った小父さんの出沒情報が、やたらと入ってくる。どうやら、かつてのネットを持った小父さんの様で、毎日が日曜の小父さんに変化した後、更に変化したらしい。このカメラ、定年祝に、愛娘から送られたとか。

四月二日 白水 隆先生 ご逝去

本会の名誉会員でも有ります九州大学名誉教授の白水隆先生がご逝去されました。先生からは、「翔」のデータ表

記は見易いと大層お褒めをいただいたていました。褒められるのはうれいしもので、以来見易いデータ表記に努めていきます。先生どうもありがとうございました。安らかにお休み下さい。

初夏の海岸で思わぬ発見が

初夏の海岸調査が面白くなってきた。スナビキソウの花にアサギマダラが飛来しているかも知れないし、海士崎や大川浜のスマレでツマグロヒヨウモンが発生しているかも知れない。

週三日は「金沢の人」

週三日は「石川の人」だったのは西原氏で、毎週東京からゲンゴロウをすくいに来ていた。「金沢の人」は生田耕一氏で、仕事の都合で名古屋

と行き来しているが、たまには週五日になったりして、金沢で採集することも有るとか。

石川県のヒラサナエは別亜種？

本家比良山のヒラサナエに比べると、石川県のヒラサナエは大きくてちよつと違う。かと言ってモイワサナエでも無いとしたら、ノトサナエかも知れない。新進気鋭の浅地氏、数を揃えて調べてみるとか。

日吉氏、加賀各地に出沒

これまで、輪島市を中心に奥能登で採集活動を続けていた日吉氏、昨年、車の運転免許を取得した事により、今年、ギフやスギタニを求めて加賀各地に出沒している。

真つ赤なクロアゲハが羽化

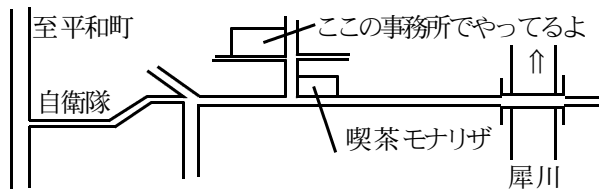
輪島のオナシや赤いクロアゲハに刺激を受けた松井氏、富来でクロアゲハを採卵し育てたところ、赤い赤いクロアゲハが羽化した。尾状突起も無かったが、ほったらかし羽化で千切れたものだった。

翔 168号

Tobu 2004年6月10日発行
百万石蝶談会

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (168号)

林 宏初・松井正人：

石川県でスナビキソウから吸蜜するアサギマダラを観察 … 1

日吉芳朗・日吉南賀子：

2003年の石川県輪島市におけるアサギマダラマーキング調査 3

松井正人：石川県で5月にツマグロヒョウモンの羽化直後の個体と

蛹の抜殻を観察 …………… 5

日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗：

石川県鳳至郡柳田村での蝶の追加記録種 …………… 6

蝶談会事務局：街で目立つ青い羽 …………… 6

富沢 章：石川県で相次いだクマゼミの記録 …………… 7

小幡英典：多勢に無勢 …………… 8

編 集 部：会員の動き・しゃばの動き ……………10